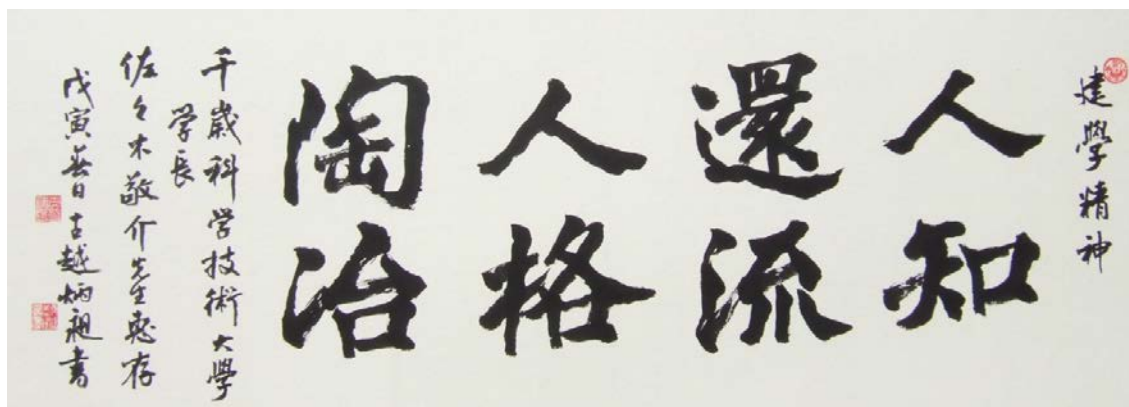


建学の精神



千歳科学技術大学は、開学以来「人知還流」および「人格陶冶」を建学の理念と定め、教育、研究、社会貢献など大学が国家および社会に対して果たしうる役割を先導することを目的としています。

母なる川で生まれたサケの稚魚は広い大海で大きく成長し、やがて故郷に戻って産卵し、新たな世代を生み出してゆきます。自然におけるこの循環は豊かな恵みをもたらしますが、私たちは人と学問（知識）についても同様のことが言えると考えています。新しい知識を身につけて千歳科学技術大学を巣立った卒業生たちは、広い社会でさらに自らを磨き、光科学や関連した科学技術を通じて社会の発展に寄与します。同時にその成果はダイナミックな循環の中で再び大学に還流し、新たな発展の種子となって次の世代に引き継がれます。私たちが求める「人知還流」とはこのような流れを通して、社会と共に発展する大学を意味しています。これを実現するにはグローバル化する国際社会に対応した高い人格を伴った技術者の育成、すなわち「人格陶冶」が必然的に求められます。これは主体的に考え自ら行動する人材を輩出することであり、とりもなおさず学生一人ひとりが世界の一員としての高い理想を持ち、その自覚のもとにやがて企業や社会において積極的な寄与を行うべく修学に努め切磋琢磨することです。この「人格陶冶」に対し十分な支援と指導を惜しまないことが私たちの掲げる理念です。

千歳科学技術大学 校歌（作詞・作曲 寺島尚彦） 平成 13 年 11 月制定

- | | |
|--|---|
| <p>1 光の海を風がわたる
美々の森に四季を画(え)がく
いま ひらめきの橋に立てば
行手(ゆくて)に明日(あした)が見える
究めるは光の神秘
世界の英知紡(つむ)ぎつつ
集うわれらの <small>シーアイエステイ</small> C I S T
未来へすべての夢はここに</p> | <p>2 千歳の土に足をふまえ
耳にとどく時代(とき)の流れ
いま 青空を仰ぎみれば
心は翼になる
翔(と)び立てば光の浪漫
稜輝の虹を駆けあがる
若いわれらの <small>シーアイエステイ</small> C I S T
世界へすべての道はここに</p> |
|--|---|

千歳科学技術大学 校章（デザイン：篠塚正典） 平成 10 年 4 月制定



千歳科学技術大学の頭文字「C」を基本にして、光科学の眩光をデザインしており、その鋭く四方に広がるシャープなラインは最先端技術を表し、また千歳を中核として世界に発信される光テクノロジーの広がりを象徴しています。